

1 栄養・食生活

大目標：食生活を豊かにしよう

<これまでの主な取組>

① 関係団体、関係機関

親子の食育教室，栄養ケアステーション，食生活・食育に関する講演会，保育所・幼稚園における食育推進事業，「自分で作れるよ！朝ごはん」事業，「一日3食まず野菜」事業，生活習慣病予防のためのスキルアップ事業，個別栄養相談，小児生活習慣病予防健診への協力支援，様々なテーマの料理教室

② けんこう課および関係各課

離乳食講習，栄養教室，健康相談，レベルアップ教室，健幸まつり（学校給食会によるバランスが取れた食事の展示），地域子育て支援センター「たべもの情報室」，保育所児童に対する生活習慣病予防教室，保育所児童の保護者に対する子どもの食事に関する教育，一般介護予防事業（アンチエイジング教室），介護予防・日常生活支援サービス事業，園児・児童・生徒への食育

<評価指標>

評価項目	対象	H25 年度調査 ベースライン時	H30 年度調査 中間評価時	H36 年度 目標値	評価	データの出所
①主食・主菜・副菜を揃えて食べるようにする者の割合	20歳以上男性 20歳以上女性	60.7% 71.8%	66.4% 75.1%	90% 90%	B B	アンケート調査
②朝食を毎日食べる子どもの割合	5歳児 小学5年生 中学2年生	92.2% 85.7% 83.3%	91.9% 88.3% 82.6%	97% 93% 89%	C B C	アンケート調査
③朝食をほとんど食べないまたは、食べない者の割合	20歳代男性 30歳代男性	29.2% 35.1%	21.6% 22.6%	15% 15%	B B	アンケート調査
④うどんを食べる時に副食を添える者の割合	20歳以上	52.2%	52.6%	75%	C	アンケート調査
⑤早食いをする者の割合	20歳以上男性 20歳以上女性	53.5% 44.2%	50.9% 42.4%	40% 30%	B C	アンケート調査
⑥よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心のある者の割合	20歳以上	51.9%	58.8%	80%	B	アンケート調査
⑦野菜を1日350g以上とるよう心がけている者の割合	20歳以上	48.7%	48.3%	60%	C	アンケート調査
⑧肥満者（BMI25以上）の割合	20～60歳代男性 40～60歳代女性	29.7% 17.4%	29.0% 21.1%	20% 15%	C D	アンケート調査
⑨肥満傾向児（肥満度20%以上）の割合	小学5年生 中学2年生	11.4% 8.9%	6.8% 6.0%	減少傾向へ	A A	中讃地域小児体格調査
⑩食事を毎日1人で食べる子どもの割合	朝食 小学5年生 中学2年生 夕食 小学5年生 中学2年生	12.4% 35.0% 7.1% 17.2%	15.9% 26.6% 10.3% 7.7%	減少傾向へ	D A D A	アンケート調査

評価基準：A（目標を達成した），B（目標を達成していないが，改善傾向にある），C（変わらない※ベースライン時と中間評価時の値が±2.0%以内），D（悪化している），E（前回は設問がないため評価困難）

<課題>

- ・肥満児の割合は減少していますが、成人女性の肥満者の割合が増加しています。肥満の改善は、生活習慣病予防および重症化防止のためにも大切な生活習慣の一つであることから、野菜摂取を中心に栄養バランスのとれた食事を心がけ、適正体重を維持するための積極的な取組が必要です。
- ・小学5年生で食事を毎日1人で食べる子どもの割合が朝食・夕食共に増加しており、また、朝食を毎日食べる子どもの割合も目標値を達成していないことから、未来を担う子ども達の健全な食生活を確立する取組が必要です。

<今後の重点的取組>

- ・年代別、性別に応じて適正体重を維持していくために、生活リズムや野菜摂取を中心に栄養バランスのとれた食事をとるなどの生活習慣を定着させる啓発を推進します。
- ・健全な食生活確立のため、早寝、早起き、朝ごはんなど、子どもの望ましい基本的な生活習慣の育成を推進します。
- ・子どもから高齢者まで、共食の大切さや食に関する知識と実践力が身に付くよう、あらゆる機会を通じて食育を進めます。

2 身体活動・運動

大目標：生涯にわたって楽しく身体を動かそう

<これまでの主な取組>

① 関係団体、関係機関

特定保健指導、セミナーの開催、講演会の開催、歴史探索、ウォーキング大会、ふるさとウォーク、体力測定、ラジオ体操、体育指導員の育成支援、ウォーキングレッスン、運動啓発のチラシ作成、総合型地域スポーツクラブ（カローリング、ウォーキング、ゲートボール）

② けんこう課および関係各課

健康遊具の設置、健幸マップの作成・活用、Yoga 教室、Hop・Step・ウォーキング教室、健幸まつり（計測コーナー、ロコモチェック）、親子体力づくり、一般介護予防事業（はつらつ教室、ミュージック・ヒーリング、アンチエイジング教室、コグニサイズ）、介護予防・日常生活支援サービス事業、体育指導、ラジオ体操・ラジオ体操普及事業、体力測定、スポーツ推進委員研修

<評価指標>

評価項目	対象	H25年度調査 ペースライン時	H30年度調査 中間評価時	H36年度 目標値	評価	データの出所
①日常生活における 歩数	20～64歳 男性	4,735歩	5,508歩	9,000歩	B	アンケート 調査
	女性	4,580歩	4,487歩	8,500歩	D	
	65歳以上 男性	5,151歩	4,362歩	7,000歩	D	
	女性	3,955歩	3,815歩	6,000歩	D	
②運動習慣者の割合	20～64歳 男性	19.9%	22.7%	36%	B	アンケート 調査
	女性	12.9%	16.5%	33%	B	
	65歳以上 男性	47.1%	31.7%	55%	D	
	女性	38.8%	27.4%	42%	D	
③運動をしている子 どもの割合	小学5年生男子	76.0%	88.9%	86%	A	アンケート 調査
	女子	51.3%	76.8%	61%	A	
	中学2年生男子	88.4%	90.3%	90%	A	
	女子	66.8%	76.8%	70%	A	

評価項目	対象	H25年度調査 ペースライン時	H30年度調査 中間評価時	H36年度 目標値	評価	データの出所
④体を使った遊びを している子どもの 割合	5歳 男児 女児	87.2% 89.1%	93.2% 89.1%	90% 90%	A C	アンケート 調査
⑤特別な運動をして いる子どもの割合	小学4年生	49.2%	69.3%	60%	A	小児生活習 慣病予防健 診報告書
⑥休日や放課後、体 を動かす外遊びを する子どもの割合	小学4年生	36.6%	41.3%	47%	B	小児生活習 慣病予防健 診報告書

評価基準：A（目標を達成した）、B（目標を達成していないが、改善傾向にある）、C（変わらない）、D（悪化している）、E（今回は設問がないため評価困難）

<課題>

- ・成人の一日に歩く歩数が目標値を達成しておらず、高齢者においては歩数が前回の調査時より減少し、さらに運動習慣者の割合も減少しています。年代に応じた身体活動増加に向けたアプローチを行う必要があり、日常生活活動量が増えるよう、歩数増加に意識を向け、楽しく身体を動かす機会の提供が必要です。

<今後の重点的取組>

- ・日常生活での活動量を増やすには歩数を意識することが効果的であり、ウォーキングマップや健康ポイントの普及啓発などを通じ、ウォーキングの推進を図ります。
- ・年代や目的、健康状態に合わせて楽しく身体を動かす機会を提供します。
- ・健康遊具とウォーキングを併せて活用できるよう体制整備を行い、広く周知します。
- ・いつでも、どこでも、誰とでも手軽に行える体操のラジオ体操を普及します。
- ・高齢期に入ると運動する時間はとれるようになるものの、加齢による筋力低下に伴い、動きに制限が出ることなどから運動しづらくなり、気力が衰えがちです。地域活動への参加など積極的に外に出る機会をつくり、身体活動量を増やしていく取組が必要です。

3 歯と口腔の健康

大目標：生涯にわたって自分の歯で食べよう

<これまでの主な取組>

① 関係団体、関係機関

歯の健康管理に関する講演会、歯っぴいフェスタ、「良く噛むことは健康の源」チラシ作成、噛むことを意識するレシピの普及

② けんこう課および関係各課

オーラルヘルスケア事業、妊婦歯科健診、もぐもぐ歯っぴいスクール、1歳6か月児健康診査、2歳6か月児歯科健康診査、3歳児健診、歯周疾患検診、特定健診後の歯科受診勧奨および歯科保健指導の周知、歯の健康に関する健康教育、健幸まつり（歯科医師による相談、歯科衛生士によるブラッシング指導）、一般介護予防事業（アンチエイジング教室）、介護予防・日常生活支援サービス事業、児童への歯磨き指導

<評価指標>

評価項目	対象	H25 年度調査 ベースライン時	H30 年度調査 中間評価時	H36 年度 目標値	評価	データの出所
①なんでも噛んで食べられる者の割合	60 歳代	66.7%	64.8%	80%	C	アンケート調査
②60 歳で 24 歯以上自分の歯を有する者の割合	60 歳	—	—	85%		
③80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者の割合	80 歳	—	—	50%		
④虫歯がない者の割合（未処置歯）	1 歳 6 か月児	98.9%	98.8%	100%	C	坂出市保健・国保の概要 坂出市 2 歳 6 か月児歯科健診結果 坂出市小中学校歯科健診結果
	2 歳 6 か月児	92.3%	91.0%	95%	C	
	3 歳児	80.8%	83.9%	82%	A	
	小学生	64.9%	70.0%	70%	A	
	中学生	80.7%	93.1%	85%	A	
⑤歯に相当な歯石の付着がある者の割合	小学生	6.3%	5.6%	6%	A	坂出市小中学校歯科健診結果
	中学生	2.9%	1.7%	3%	A	
⑥専門医の診断を要する歯肉の状態の者の割合	小学生	2.7%	2.2%	2%	B	坂出市小中学校歯科健診結果
	中学生	3.2%	1.8%	2%	A	
⑦毎食後歯を磨く者の割合	5 歳児	43.6%	41.9%	50%	C	アンケート調査
	小学生	63.1%	59.3%	70%	D	
	中学生	34.2%	32.1%	40%	D	
	20 歳以上	22.8%	22.6%	30%	C	
⑧歯周疾患検診受診率	40・50・60・65・70・75 歳	5.7%	5.1%	15%	C	坂出市保健・国保の概要
⑨妊婦歯科健康診査受診率	妊婦	41.2%	48.7%	50%	B	坂出市保健・国保の概要
⑩定期歯科健診受診割合	20 歳代	11.7%	16.7%	20%	B	アンケート調査
	30 歳代	22.6%	22.0%	30%	C	
	40 歳代	25.3%	28.4%	30%	B	

評価基準：A（目標を達成した）、B（目標を達成していないが、改善傾向にある）、C（変わらない）、D（悪化している）、E（今回は設問がないため評価困難）

<課題>

- ・小・中学生において、むし歯のない者の割合は増加し、歯に相当な歯石の付着がある者の割合は減少しているが、毎食後歯を磨く者の割合は減少しており、歯みがきを習慣づける取組が必要です。
- ・定期歯科健診受診割合は目標値を達成しておらず、歯周疾患検診の受診率も低いことから、自分の歯や口の健康に関心を持てるような働きかけが必要です。

<今後の重点的取組>

- ・市民に正しい歯みがき習慣が定着するよう「キレイキレイのまち坂出・オーラルヘルスケア事業」でオーラルヘルスケアリーダーを中心に、普及啓発を積極的に実施します。
- ・自分の口に関心を持てるよう、研修会やイベントの機会を増やし、普及啓発してまいります。
- ・60 歳代のなんでも噛んで食べられる者の割合が目標値に達していないため、特に高齢者の咀嚼能力向上を促す取組が必要です。

4 休養・こころの健康づくり

大目標：こころも身体もいきいき暮らそう

<これまでの主な取組>

① 関係団体，関係機関

会報でのワークライフバランスの周知，自殺防止の周知，「メンタルヘルス対策セミナー」開催，労働者のストレスチェックや高ストレス者への面接指導，ベビーマッサージ，育児サークル，PTA連絡協議会主催の各部会（保護者同士の交流・情報交換），子育てサークル，こころの健康に関する相談窓口のチラシ作成

② けんこう課および関係各課

産後うつ病予防・啓発，こころの健康相談，いのちの健康教育，障がい者（児）相談支援事業，自立支援医療（精神通院）の給付および制度周知，一般介護予防事業（はつらつ教室，ミュージック・ヒーリング，アンチエイジング教室，コグニサイズ，介護予防サポーター養成講座，認知症サポーター養成講座，認知症カフェ，もの忘れ・けんしん，住民主体の通いの場づくり，スクールカウンセラー派遣，職員のストレスチェック

<評価指標>

評価項目	対象	H25年度調査 ベースライン時	H30年度調査 中間評価時	H36年度 目標値	評価	データの出所
①自殺者数	H24	15名	7名	減少	A	人口動態統計
②睡眠による休養を十分にとれていない者の割合	20歳以上	22.4%	25.5%	15%	D	アンケート調査
③この1年間でストレスを感じた者の割合	20歳以上	77.4%	76.0%	58.3%	C	アンケート調査
④ストレスが負担で解消法もない者の割合	中学2年生 20歳以上	29.8% 15.5%	26.1% 17.5%	13% 10%	B C	アンケート調査
⑤相談ができる人や場所がある者の割合	小学5年生 中学2年生 20歳以上	92.6% 71.6% 89.5%	89.7% 74.6% 83.6%	100% 100% 100%	D B D	アンケート調査
⑥メンタルヘルスについて相談できる場所の認知度	20歳以上	—	46.0%	100%	E	アンケート調査
⑦朝起きたとき、「今日も一日頑張ろう」と思える者の割合	小学5年生 中学2年生	67.4% 46.2%	66.6% 51.2%	70% 50%	C A	アンケート調査

評価基準：A（目標を達成した），B（目標を達成していないが，改善傾向にある），C（変わらない），D（悪化している），E（前は設問がないため評価困難）

<課題>

- 睡眠による休養を十分にとれていない者の割合が増えており，睡眠による休養の重要性や規則正しい生活の必要性の更なる周知が必要です。
- 相談できる人や場所がある者の割合が，小学5年生と20歳以上で減少しており，一人で抱え込まないようにするための体制整備と相談窓口等の周知が必要です。

<今後の重要的取組>

- ・坂出市自殺対策計画を策定し、相談窓口などの体制整備だけでなく、全庁的な取組を展開してまいります。
- ・休養の一つである睡眠は、不足すると疲労感をもたらすだけでなく、情緒を不安定にし、生活の質に大きく影響するので、睡眠を十分にとることの重要性を周知します。
- ・ストレスに対応するため、一人ひとりが自分に適した休養方法を身に付けることができるきっかけづくりを実施してまいります。

5 喫煙

大目標：たばこの害から自分と家族の健康を守ろう

<これまでの主な取組>

① 関係団体、関係機関

禁煙外来による禁煙方法の提案、禁煙外来医の増員、特定健診や各種がん検診での禁煙のすすめ、啓発のための講演会

② けんこう課および関係各課

母子健康手帳交付やパパママ学級等における健康教育、児童・生徒・保護者への喫煙防止教室

<評価指標>

評価項目	対象	H25 年度調査 ベースライン時	H30 年度調査 中間評価時	H36 年度 目標値	評価	データの出所
①成人の喫煙率	20 歳以上	17.0%	13.3%	14.4%	A	アンケート調査
②たばこの害を知っている者の割合	20 歳以上	93.0%	91.5%	100%	C	アンケート調査
	5 歳児保護者	93.0%	99.1%	100%	B	
	小学 5 年生	92.6%	86.4%	100%	D	
	中学 2 年生	99.5%	93.5%	100%	D	
③妊娠中の喫煙率	妊婦	2.1%	3.6%	0%	C	妊娠届データ
④禁煙・分煙認定施設数	H25.4 市内	37 施設	40 施設	増加	A	県健康福祉総務課
⑤COPD について知っている者の割合	20 歳以上	—	18.7%	80%	E	アンケート調査

評価基準：A（目標を達成した）、B（目標を達成していないが、改善傾向にある）、C（変わらない）、D（悪化している）、E（前回は設問がないため評価困難）

<課題>

- ・たばこの害について知っている者の割合が、小学 5 年生、中学 2 年生で減少しており、COPD（慢性閉塞性肺疾患）について知っている者の割合が少ないことから、継続してたばこの害や禁煙に対する普及啓発への取組が必要です。
- ・妊娠中の喫煙率が増加していることから、妊婦や胎児に及ぼす影響を子どもの頃から周知徹底が必要です。
- ・国のすすめる受動喫煙防止対策の動向を踏まえ、喫煙をやめたい人がやめる支援と受動喫煙を防ぐ環境整備が必要です。
- ・家庭内では子どもの目につく場所にたばこを置かない、学校では防煙教育を行うなど、家庭や学校、地域全体で未成年者の喫煙を防止する取組が必要です。

<今後の重点的取組>

- ・COPD についての認知度の向上に向けた普及啓発に努めます。
- ・妊娠期の喫煙をなくすため、妊娠届出時の面接や、両親学級等での禁煙教育を徹底し、SNS やマスメディアなどを活用して、若い世代にあった方法で普及啓発します。
- ・受動喫煙防止対策として、健康への影響も踏まえ、様々な関係団体と連携して、禁煙、完全分煙が図られるよう働きかけてまいります。

6 飲酒

大目標：お酒の適量を知り、節度ある飲酒に努めよう

<これまでの主な取組>

① 関係団体、関係機関

医療機関での禁酒指導、アルコール依存の講演会とパッチテストの実施

② けんこう課および関係各課

母子健康手帳交付やパパママ学級等における健康教育、健康相談、児童・生徒へのアルコール依存防止教育

<評価指標>

評価項目	対象	H25 年度調査 ベースライン時	H30 年度調査 中間評価時	H36 年度 目標値	評価	データの出所
①生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者(1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上の者)の割合	男性 女性	36.5% 10.7%	30.8% 10.7%	13% 6.4%	B C	アンケート調査
②未成年の飲酒の害を知っている者の割合	小学5年生男子 女子 中学2年生男子 女子	78.2% 89.3% 84.0% 94.1%	77.6% 80.9% 87.2% 93.4%	100% 100% 100% 100%	C D B C	アンケート調査
③適正飲酒の量を知っている者の割合	男性 女性	51.6% 38.6%	50.5% 41.8%	100% 100%	C B	アンケート調査

評価基準：A（目標を達成した）、B（目標を達成していないが、改善傾向にある）、C（変わらない）、D（悪化している）、E（前回は設問がないため評価困難）

<課題>

- ・生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合が、男性で減少しているが男性・女性共に目標値までは減少しておらず、また、節度のある飲酒の量を知っている者の割合も低いことから、健康への影響などを引き続き啓発する取組が必要です。
- ・未成年の飲酒の害を知っている者の割合が小学5年生、中学2年生のどちらも目標値を達成していないことから、引き続き啓発する取組が必要です。

<今後の重点的取組>

- ・節度のある飲酒量、休肝日の設け方や適切なお酒の飲み方、健康への影響等を普及するため、職域保健と連携して、事業所や企業にも様々な方法で広報、啓発を行います。
- ・未成年者の飲酒については、学校・関係団体と連携し、学習指導要領に基づいて飲酒が健康に与

える影響等に関する指導を継続します。また、SNS やマスメディアなどを活用して、若い世代にあった方法で普及啓発します。

7 生活習慣病（がん）

大目標：がんの予防と早期発見・早期治療に努めよう

<これまでの主な取組>

① 関係団体，関係機関

各種がん検診の実施，禁煙外来の周知

② けんこう課および関係各課

健康教育，各種がん検診，人間ドック，各種検（健）診の周知活動，肝炎ウィルス検診，児童・生徒へ「病気の予防」授業

<評価指標>

評価項目	対象	H25 年度調査 ベースライン時	H30 年度調査 中間評価時	H36 年度 目標値	評価	データの出所
①がんの年齢調整死亡率(人口10万対)	男性	175.6	106.2	88.2	B	香川の保健統計指標
	女性	107.9	88.3		B	
②がん検診の受診率	胃がん	男性	8.7%	50%	D	地域保健報告
		女性	9.2%		D	
	肺がん	男性	27.0%		D	
		女性	30.2%		D	
	大腸がん	男性	22.6%		D	
		女性	26.4%		D	
	子宮頸がん	25.0%	D			
乳がん	21.8%	D				
③がんについての問題の正答率（11問の平均正答率）	20歳以上	44.7%	50.1%	70%	B	アンケート調査

評価基準：A（目標を達成した），B（目標を達成していないが，改善傾向にある），C（変わらない），D（悪化している），E（今回は設問がないため評価困難）

<課題>

- ・がん検診の受診率が低いので，受診率向上に向けた積極的な取組が必要です。
- ・がんについての問題の正答率は増加しているが，目標値を達成しておらず，予防につながる正しい知識の普及を継続的に働きかける必要があります。

<今後の重点的取組>

- ・がん検診については，受診しやすい体制づくりを進めます。
- ・未受診者に対し，効果的な受診勧奨をまいります。
- ・がんを予防するため，食生活，運動，喫煙，飲酒といった分野で，生活習慣の改善が図られるよう関係団体とともに普及啓発を進めます。

7 生活習慣病（循環器疾患）

大目標：循環器疾患の発症予防と早期発見・重症化防止に努めよう

＜これまでの主な取組＞

① 関係団体，関係機関

健康診断受診事業，健康相談，健康増進セミナー，講演会

② けんこう課および関係各課

健康教育，健康診査，人間ドック，各種検（健）診の周知活動，特定保健指導，小児生活習慣病検査

＜評価指標＞

評価項目	対象	H25 年度調査 ベースライン時	H30 年度調査 中間評価時	H36 年度 目標値	評価	データの出所
①脳血管疾患・虚血性心疾患の年齢調整死亡率 ・脳血管疾患 ・虚血性心疾患	人口 10 万対男性	33.6	26.9	現状維持 24.7 31.8 13.7	A	香川の保健統計指標
	人口 10 万対女性	26.0	24.0		A	
	人口 10 万対男性	67.2	70.3		D	
	人口 10 万対女性	47.7	33.1		B	
②収縮期血圧の平均値	男性	130.1mmHg	131.3mmHg	130mmHg 129mmHg	C	特定健診・特定保健指導の実施状況
	女性	129.8mmHg	128.3mmHg		A	
③LDL コレステロール 160 mg/dl 以上の者の割合	男性	5.9%	7.9%	5.9% 8.8%	D	特定健診・特定保健指導の実施状況
	女性	9.6%	11.7%		D	
④メタボリックシンドロームの該当者および予備群の割合	男性	53.4%	51.3%	28.7% 10.6%	B	特定健診・特定保健指導の実施状況
	女性	18.6%	18.3%		C	
⑤特定健康診査・保健指導の実施率	特定健康診査	34.5%	35.2%	80% 60%	C	特定健診・特定保健指導の実施状況
	特定保健指導	12.7%	36.8%		B	

評価基準：A（目標を達成した），B（目標を達成していないが，改善傾向にある），C（変わらない），D（悪化している），E（前回は設問がないため評価困難）

＜課題＞

- ・LDLコレステロール160mg/dl以上の者の割合が男性・女性共に増えており，メタボリックシンドロームの該当者および予備軍の割合も大きくは変わっていないことから，食事，運動，喫煙対策など予防に関する積極的な介入が必要です。
- ・特定健康診査の実施率は微増だが，目標値を達成していないので，特定健診の実施率向上対策が必要です。

＜今後の重点的取組＞

- ・生活習慣病予防について，関係団体とも連携し，一人ひとりが生活習慣の改善に取り組むよう専門的な普及啓発を行います。
- ・特定健康診査は，脳血管疾患や心疾患のハイリスク者のスクリーニングとして対策を考え，無関心層へ積極的に働きかけます。

7 生活習慣病（糖尿病）

大目標：糖尿病の発症予防と早期発見・重症化防止に努めよう

＜これまでの主な取組＞

① 関係団体，関係機関

糖尿病性腎症等重症化予防事業，講演会

② けんこう課および関係各課

健康教育，健康診査，人間ドック，各種検（健）診の周知活動，特定保健指導，糖尿病性腎症等重症化予防事業，小児生活習慣病検査

＜評価指標＞

評価項目	対象	H25 年度調査 ベースライン時	H30 年度調査 中間評価時	H36 年度 目標値	評価	データの出所
①血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合（HbA1cがJDS値8.0%（NGSP値8.4%）以上の者の割合）	—	0.7%	0.9%	現状維持	C	特定健診・特定保健指導の実施状況
②特定健康診査受診者のうち，糖尿病の治療に係る薬剤を服用している者の割合	男性 女性	9.7% 4.9%	10.1% 5.5%	現状維持	C C	特定健診・特定保健指導の実施状況
③メタボリックシンドロームの該当者および予備群の割合（再掲）	男性 女性	53.4% 18.6%	51.3% 18.3%	28.7% 10.6%	B C	特定健診・特定保健指導の実施状況
④特定健康診査・保健指導の実施率（再掲）	特定健康診査 特定保健指導	34.5% 12.7%	35.2% 36.8%	80% 60%	C B	特定健診・特定保健指導の実施状況
⑤糖尿病についての問題の正答率（14問の平均正答率）	20歳以上	59.2%	58.5%	70%	C	アンケート調査
⑥身体障がい者手帳1級で，障がい名に「透析」の記載がある者		120名	146名	現状維持	D	坂出市障がい者データ
⑦⑥のうち年度に初めて「透析」記載所持対象者数		10名	27名	現状維持	D	坂出市障がい者データ

評価基準：A（目標を達成した），B（目標を達成していないが，改善傾向にある），C（変わらない），D（悪化している），E（前回は設問がないため評価困難）

＜課題＞

- ・血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合が微増しており，特定健康診査受診者のうち，糖尿病の治療に係る薬剤を服用している割合も微増していることから，食事，運動，喫煙対策など予防に関する積極的な介入が必要です。

- ・糖尿病の重症化防止対策が必要です。

<今後の重点的取組>

- ・糖尿病予防について、関係団体とも連携し、一人ひとりが生活習慣の改善に取り組むよう専門的な普及啓発を行います。
- ・糖尿病が重症化し、重大な事態に陥らないように、合併症に関する定期的な検査と治療の必要性を啓発し、また、適切な治療と保健指導が受けられるよう、かかりつけ医を中心に医療機関等との連携を図ります。

8 ライフステージに応じた健康づくり（次世代 概ね18歳まで）

大目標：よい生活環境を家庭からつくり

<これまでの主な取組>

① 関係団体、関係機関

愛育だよりの配布、わくわくサークル、子育てサークル、保育所・幼稚園における食育推進事業、食育講演会、妊産婦・乳幼児健康診査における医師による保健指導

② けんこう課および関係各課

離乳食講習、栄養教室、健康相談、レベルアップ教室、健幸まつり（学校給食会によるバランスが取れた食事の展示）、地域子育て支援センター「たべもの情報室」、保育所児童に対する生活習慣病予防教室、保育所児童の保護者に対する子どもの食事に関する教育、親子体力づくり、体育指導、オーラルヘルスケア事業、もぐもぐ歯っぴいスクール、1歳6か月児健康診査、2歳6か月児歯科健康診査、3歳児健診、健幸まつり（歯科医師による相談、歯科衛生士によるブラッシング指導）、いのちの健康教育、障がい者（児）相談支援事業、自立支援医療（精神通院）の給付および制度周知、スクールカウンセラー派遣、児童・生徒・保護者への喫煙・アルコール依存防止教室、小児生活習慣病検査

<評価指標>

評価項目	対象	H25年度調査 ベースライン時	H30年度調査 中間評価時	H36年度 目標値	評価	データの出所
①妊婦健康診査受診回数	妊婦	11.1回	12回	増加傾向 ↑	B	坂出市保健・国保の概要
②3～4か月児健康診査の受診率	3～4か月児	96.4%	95%	98%	C	坂出市保健・国保の概要
③1歳6か月児健康診査の受診率	1歳6か月児	93.9%	98%	95%	A	坂出市保健・国保の概要
④3歳児健康診査受診率	3歳6か月児	89.4%	99%	95%	A	坂出市保健・国保の概要
⑤小児生活習慣病予防健診の受診率	小学4年生	91.7%	95.9%	100%	B	小児生活習慣病予防健診報告書
⑥全出生数中の低出生体重児（2,500g未満）の割合	出生児	8.6%	13.2%	減少傾向 ↓	D	香川県保健統計年報 人口動態統計
⑦人工妊娠中絶数	妊婦	13.4%	データなし	9%	E	かがわの母子保健
⑧妊娠中の喫煙率（再掲）	妊婦	2.1%	3.6%	0%	D	妊娠届データ

評価項目	対象	H25年度調査 ベースライン時	H30年度調査 中間評価時	H36年度 目標値	評価	データの出所
◎肥満傾向児（肥満度20%以上）の割合（再掲）	小学5年生 中学2年生	11.4% 8.9%	6.8% 6.0%	減少傾向 へ	A A	坂出市小中学校保健統計調査
⑩運動をしている子どもの割合（再掲）	小学5年生男子 女子 中学2年生男子 女子	76.0% 51.3% 88.4% 66.8%	88.9% 76.8% 90.3% 76.8%	86% 61% 88% 70%	A A A A	アンケート調査

評価基準：A（目標を達成した）、B（目標を達成していないが、改善傾向にある）、C（変わらない）、D（悪化している）、E（今回は設問がないため評価困難）

<課題>

- ・全出生数中の低出生体重児の割合が増えており、妊娠中の喫煙率が増えていることから、喫煙の影響などについて若い世代への啓発が必要です。

<今後の重点的取組>

- ・妊娠期の喫煙をなくすため、妊娠届出時の面接や、両親学級等での禁煙教育を徹底し、SNSやマスメディアなどを活用して、若い世代にあった方法で普及啓発します。
- ・よい生活環境を家庭からつくるため、妊娠期から切れ目のない支援を行う子育て世代包括支援センターを広く啓発し、支援体制を確立します。

8 ライフステージに応じた健康づくり（青・壮年期 概ね19～64歳まで）

大目標：ライフスタイルを見直して自ら健康管理を行おう

<これまでの主な取組>

① 関係団体、関係機関

「働き方改革」推進セミナーの開催、産業医の活動・指導、ふれあい運動会やウォーキング等

② けんこう課および関係各課

健康遊具の設置、健幸マップの作成・活用、Yoga教室、Hop・Step・ウォーキング教室、健幸まつり（計測コーナー、ロコモチェック）、ラジオ体操・ラジオ体操普及事業、体力測定、スポーツ推進委員研修、妊婦歯科健診、歯周疾患検診、特定健診後の歯科受診勧奨および歯科保健指導の周知、歯の健康に関する健康教育、産後うつ病予防・啓発、こころの健康相談、障がい者（児）相談支援事業、自立支援医療（精神通院）の給付および制度周知、介護予防サポーター養成講座、認知症サポーター養成講座、各種がん検診、人間ドック、各種検（健）診の周知活動、肝炎ウィルス検診、糖尿病性腎症等重症化予防事業

<評価指標>

評価項目	対象	H25年度調査 ベースライン時	H30年度調査 中間評価時	H36年度 目標値	評価	データの出所
①特定健康診査・保健指導の実施率（再掲）	特定健康診査 特定保健指導	34.5% 12.7%	35.2% 35.8%	80% 60%	C B	特定健診・特定保健指導の実施状況
②メタボリックシンドロームの該当者および予備群の割合（再掲）	男性 女性	53.4% 18.6%	51.3% 18.3%	28.7% 10.6%	B C	特定健診・特定保健指導の実施状況

評価項目	対象	H25 年度調査 ベースライン時	H30 年度調査 中間評価時	H36 年度 目標値	評価	データの出所
③日常生活における 歩数（再掲）	20～64 歳男性	4,735 歩	5,508 歩	9,000 歩	B	アンケート 調査
	女性	4,580 歩	4,487 歩	8,500 歩	D	
	65 歳以上男性	5,151 歩	4,362 歩	7,000 歩	D	
	女性	3,955 歩	3,815 歩	6,000 歩	D	
④定期歯科健診受診 割合（再掲）	20 歳代	11.7%	16.7%	20%	B	アンケート 調査
	30 歳代	22.6%	22.0%	30%	C	
	40 歳代	25.3%	28.4%	30%	B	
⑤睡眠による休養を 十分に取れていな い者の割合（再掲）	20 歳以上	22.4%	25.5%	15%	D	アンケート 調査
⑥成人の喫煙率 （再掲）	20 歳以上	17.0%	13.3%	14.4%	A	アンケート 調査
⑦適正飲酒の量を知 っている者の割合 （再掲）	男性	51.6%	50.5%	100%	C	アンケート 調査
	女性	38.6%	41.8%	100%	B	
⑧がん検診の受診率 （再掲）	胃がん 男性	8.7%	3.4%	50%	D	地域保健報 告※
	女性	9.2%	4.6%		D	
	肺がん 男性	27.0%	14.3%		D	
	女性	30.2%	20.5%		D	
	大腸がん 男性	22.6%	11.5%		D	
	女性	26.4%	16.5%		D	
	子宮頸がん	25.0%	14.0%		D	
乳がん	21.8%	17.2%	D			

評価基準：A（目標を達成した）、B（目標を達成していないが、改善傾向にある）、C（変わらない）、D（悪化している）、E（前回は設問がないため評価困難）

※平成28年度地域保健報告より、がん検診の受診率を算出する際の対象者が、全住民に変更となっている。

<課題>

- ・特定健康診査の実施率が微増だが、目標値を達成していないので、特定健診の実施率向上対策が必要です。
- ・成人の一日に歩く歩数が目標値を達成しておらず、年代に応じた身体活動増加に向けたアプローチを行う必要があります。また、日常生活活動量が増えるよう、歩数増加に意識を向け、楽しく身体を動かす機会の提供が必要です。
- ・がん検診の受診率が低いので、受診率向上に向けた積極的な取組が必要です。

<今後の重点的取組>

- ・働く世代が自身の健康や生活習慣を見直すことができるよう、ライフスタイルに応じた支援をします。
- ・特定健康診査、がん検診の未受診者に働きかけを行うとともに、受診環境の整備を行います。

8 ライフステージに応じた健康づくり（高齢者 概ね 65 歳以上）

大目標：生きがいを持ち自律して暮らそう

<これまでの主な取組>

① 関係団体、関係機関

「お元気ですか」の配布、小地域福祉ネットワーク、福祉推進委員の活動、友愛訪問活動、仲間づくり活動、居場所づくり活動、老人クラブスポーツ大会、ペタンク大会、坂出市医師会在宅医療介護連携支援センターのコーディネーターによる活動

② けんこう課および関係各課

一般介護予防事業（はつらつ教室，ミュージック・ヒーリング，アンチエイジング教室，コグニサイズ），介護予防・日常生活支援サービス事業，介護予防サポーター養成講座，認知症サポーター養成講座，認知症カフェ，もの忘れ・けんしん，住民主体の通いの場づくり，介護予防サポーター養成講座，認知症サポーター養成講座，各種がん検診，人間ドック，各種検（健）診の周知活動，肝炎ウィルス検診，糖尿病性腎症等重症化予防事業

<評価指標>

評価項目	対象	H25年度調査 ベースライン時	H30年度調査 中間評価時	H36年度 目標値	評価	データの出所
①健康寿命	男性 女性	78.01 歳 82.69 歳	算出中	平均寿命 の増加分 を上回る 健康寿命 の増加		健やか香川 21 ヘルスプ ラン
②要介護認定率		18.3%	19.2%	現状より 改善	C	介護保険事業 状況報告
③要介護認定者数の うち要支援者の割合		34.7%	41.1%	現状より 改善	B	介護保険事業 状況報告
④65歳以上の介護保 険認定者のうち意 見書で認知症高齢 者の日常生活自立 度判定Ⅱa以上の 者		12.1%	62.5%	現状より 改善	D	坂出市要介護 認定データ
⑤認知症サポーター 数		487 人	3,825 人	増加	A	全国キャラバ ンメイト連絡 協議会資料
⑥国保疾病分類統計 表における認知症 （血管性および詳 細不明の痴呆）1 件 当たりの費用額		152,997 円	251,900 円	現状 維持	D	香川県国民 健康保険統計 表疾病分類
⑦地域の集まりに参 加している者の割合	60 歳男性 女性 70 歳男性 女性	42.9% 48.8% 49.3% 57.6%	54.2% 54.3% 49.0% 52.5%	60% 60% 70% 70%	B B C D	アンケート 調査
⑧自治会の加入率		69.2%	64.2%	現状 維持	D	自治会加入 率データ
⑨ロコモティブシン ドロームの認知率	20 歳以上	—	15.8%	80%	E	アンケート 調査

評価基準：A（目標を達成した），B（目標を達成していないが，改善傾向にある），C（変わらない），D（悪化している），E（前回は設問がないため評価困難）

<課題>

- ・65歳以上の介護保険認定者のうち意見書で認知症高齢者の日常生活自立度判定Ⅱa以上の者の割合が大幅に増加しており，また，国保疾病分類統計表における認知症（血管性および詳細不明の痴呆）1件当たりの費用額も増えていることから，認知症予防，認知症になっても安心して生活できる地域づくりが必要です。
- ・ロコモティブシンドロームの認知率が目標値を下回っており，健康づくり・介護予防を目的に周

知する必要があります。

<今後の重点的取組>

- ・関係各課・関係団体・地域と連携し、認知症になっても安心して生活できる地域づくりを進めます。
- ・若い世代から疾病予防・認知症予防の視点を持ち、健康づくりの取組を行います。

9 健康を支えるための社会環境の整備

大目標：個人・地域・企業などの健康づくり推進活動を促進しよう

<これまでの主な取組>

① 関係団体、関係機関

研修会の開催、ボランティア養成講座、特定健診等で相談や支援、地区組織への支援

② けんこう課および関係各課

健康教育、健康相談、健幸まつり、一般介護予防事業（はつらつ教室、ミュージック・ヒーリング、アンチエイジング教室、コグニサイズ）、住民主体の通いの場づくり、介護予防サポーターの養成、認知症サポーターの養成、認知症カフェ、高齢者見守り訪問事業、地域との交流事業、家庭・地域参加の運動会、PTAによる体育的行事の実施

<評価指標>

評価項目	対象	H25 年度調査 ベースライン時	H30 年度調査 中間評価時	H36 年度 目標値	評価	データの出所
①地域の集まりやボランティア活動、趣味のサークルに参加したことがある者の割合（再掲）	20 歳以上	42.8%	48.2%	60%	B	アンケート調査
②居住地域の住民と交流がある者の割合	20 歳以上	75.2%	77.8%	80%	B	アンケート調査
③食生活改善推進員の活動	会員数 集会参加回数 対話訪問回数	148 人 1,057 回 1,801 回	153 人 878 回 534 回	現状 維持	A D D	坂出市食生活改善推進協議会資料
④母子愛育会の活動	班員数 活動回数 訪問件数	221 人 125 回 17,874 件	200 人 126 回 20,709 件	現状 維持	D C A	坂出市母子愛育連合会資料
⑤居住地域で、お互いに助け合っていると思う者の割合	20 歳以上	—	50.7%	65%	E	アンケート調査

評価基準：A（目標を達成した）、B（目標を達成していないが、改善傾向にある）、C（変わらない）、D（悪化している）、E（前回は設問がないため評価困難）

<課題>

- ・居住地域で、お互いに助け合っていると思う者の割合が目標値を下回っており、お互いが支えあう地域づくりが必要です。

<今後の重点的取組>

- ・関係各課・関係団体・地域と連携し、お互いが支えあう地域づくりを進めます。

第2次坂出市食育推進計画

大目標：食を通じて元気な身体と豊かなこころを育もう

<これまでの主な取組>

① 関係団体，関係機関

香川県栄養士会ホームページに掲載，親子の食育教室，「一日3食まず野菜」事業，食生活・食育に関する講演会，保育所・幼稚園における食育推進事業，男性のための料理教室，生活習慣病予防のためのスキルアップ事業，老人大学，医師会・行政主催による健康教育講演会，かがわの食文化事業

② けんこう課および関係各課

健康相談，健幸まつり（学校給食会によるバランスが取れた食事の展示），おやこの食育事業，かがわの食文化事業，勤労生産活動（もち米・さつまいも・じゃがいも・玉ねぎ・大根等），収穫体験（小原紅早生みかん），放流体験（車えび），「食育だより」配付，学校給食における郷土料理の提供，地産地消の推進

<評価指標>

評価項目	対象	H25年度調査 ベースライン時	H30年度調査 中間評価時	H36年度 目標値	評価	データの出所
①主食・主菜・副菜を揃えて食べるようにする者の割合（再掲）	20歳以上男性 20歳以上女性	60.7% 71.8%	66.4% 75.1%	90% 90%	B B	アンケート調査
②22時以降に寝る子どもの割合	5歳児 小学5年生	27.5% 62.1%	34.6% 55.7%	現状値以下 50%	D B	アンケート調査
③朝食を毎日食べる子どもの割合（再掲）	5歳児 小学5年生 中学2年生	92.2% 85.7% 83.3%	91.9% 88.3% 82.6%	97% 93% 89%	C B C	アンケート調査
④朝食をほとんど食べないまたは、食べない者の割合（再掲）	20歳代男性 30歳代男性	29.2% 35.1%	21.6% 22.6%	15% 15%	B B	アンケート調査
⑤食事前後であいさつをする者の割合	5歳児 小学5年生 中学2年生 20歳以上	93.7% 93.1% 74.6% 62.0%	93.6% 88.3% 86.5% 62.5%	現状値以上	C D A C	アンケート調査
⑥食事を毎日1人で食べる子どもの割合（再掲）	朝食 小学5年生 中学2年生 夕食 小学5年生 中学2年生	12.4% 35.0% 7.1% 17.2%	15.9% 26.6% 10.3% 7.7%	減少傾向へ	D A D A	アンケート調査
⑦食育に関心を持っている者の割合	20歳以上	56.3%	54.5%	90%	C	アンケート調査
⑧食生活改善推進員の活動（再掲）	会員数 集会参加回数 対話訪問回数	148人 1,057回 1,801回	153人 878回 534回	現状維持	A D D	坂出市食生活改善推進協議会資料
⑨郷土料理や行事食を知らない者の割合	20歳以上	9.3%	3.0%	0%	B	アンケート調査
⑩郷土料理や行事食を食卓へ取り入れていない者の割合	20歳以上	16.2%	15.6%	現状値以下	C	アンケート調査

評価項目	対象	H25年度調査 ベースライン時	H30年度調査 中間評価時	H36年度 目標値	評価	データの出所
⑪学校給食における 地場産物（香川県 産）を使用する割 合	小学校 中学校	33% 33%	30.0% 29.7%	35%	D D	県調査

評価基準：A（目標を達成した）、B（目標を達成していないが、改善傾向にある）、C（変わらない）、D（悪化している）、E（前回は設問がないため評価困難）

<課題>

- ・食育に関心を持っている者の割合（20歳以上）が減少していることから、食育に関心を持てるような働きかけが今後も必要です。
- ・小学5年生で食事を毎日1人で食べる子どもの割合が朝食・夕食共に増加しており、また、朝食を毎日食べる子どもの割合も目標値を達成していないことから、未来を担う子ども達の健全な食生活を確立する取組が必要です。

<今後の重点的取組>

- ・関係機関が相互に連携して、大人も子どもも食への感謝のこころを再認識できる機会を設け、「食育月」「食育の日」を普及啓発します。
- ・健全な食生活確立のため、早寝、早起き、朝ごはんなど、子どもの望ましい基本的生活習慣の育成を推進します。
- ・子どもから高齢者まで、共食の大切さや食に関する知識と実践力が身に付くよう、あらゆる機会を通じて食育を進めます。